

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第34号

発行:2014年7月7日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
Tel・fax(082)428-0160・(082)428-1360

盆会法座

日時 8月1日(金) 9:00~15:00頃
朝席 9:00~11:30 昼席 13:00~15:00
ご講師 山下瑞円 師(岡山県高梁市成羽町 浄福寺副住職)



第36回歎異抄輪読会

日時 7月24日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

※ 当初は、7月17日(木)となっておりましたが、松田先生が東京に行かれることになりましたので、7月24日(木)に変更となりました。

磯松天龍寺墓苑並びに合同墓合同参拝

日時 8月12日(火) 18:00~19:30

場所 磯松天龍寺墓苑

※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。
但し、天龍寺墓苑での合同参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

仏仕・仏婦からのお知らせ

★コーラス練習

7月14日(月) 9:30~11:30 参加費 100円 参加は自由です。

★天龍寺仏教壮年会 夏の研修旅行(金子みすず記念館等)

7月29日(火) 6:45~19:00

参加費 9000円 まだ、余裕があります。

★天龍寺仏教壮年会 月例会

7月31日(木) 19:00~20:30



恥ずかしい一日であり、ありがたい一日でもありました。

先月の6月14日(土)に私の叔父が住職を務めています島根県益田市の正法寺にて、前住職の十三回忌法要がありました。当山からは、私も含め3名が行かせていただきました。久しぶりの再会で叔父・従妹等とご法事が始まるまで色々とお話をしました。それからご法事があり、導師のご住職のお経が始まりました。そしてお経が終わり、ご法話が始まりますと私の頭の中で、そのお話について色々な思いが occurred。土地柄のせいもあるかもしれませんが、安芸地方のお話とは少し違っており、私の頭の中では、『このお話は、浄土真宗とどの様な関係にあるのだろうか?等々』という思いが起っておりました。しばらくしてお話が終わりますと私は恥ずかしくなりました。私の左隣には、11月16日に当山で報恩講があり、そのご講師に林智康勧学をお呼びすることになっておりますが、その林智康勧学が座っておられました。

林智康勧学は、そのお話を目をつむってじっと聞いておられ、お話がすみますと合掌をされ、深々と頭を下げられ、南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏と言われました。

林智康勧学は、そのお話をそのまま南無阿弥陀仏のご縁とされ、合掌をされておりました。それに引き換え私は、お話がどうのこうのと色々和自己中心的な考えの中で、思いを巡らせていたのです。

歎異抄輪読会で『どのようなご縁も南無阿弥陀仏のご縁』とよく言われます。林智康勧学が合掌されお念仏を称えていらっしゃる姿を見て、今述べました言葉を思いだしたしいです。本当に恥ずかしくなりました。細川先生は、『知性という立場に立つ限り、正邪・善悪・損得等の分別心・はからいから抜け出す事は出来ない』と言われております。林智康勧学は、そのお話を裁く心ではなく、これを越えた所で受け止めておられたのかも知れません。そのお姿を見て、ありがたいご縁をいただいたと感謝したしいです。

また、細川先生は私たちが日常性の中に埋没している存在だと言われておりました。この日常性について細川先生は3点あげられておられます。一つには経済、二つには性、三つには親子関係です。先生は『このような日常の問題の中で憎んだり愛したり、或いは儲けたと喜び損をしたと嘆く』と言われておられます。本当にその通りだと思っております。

その様な日常性の中に埋没している生活をおくり続け、気がつけば自分自身に老病死がせまり、ふっと自分の人生を振り返り『いったい自分の人生は何だったのか?私の生き方は、今までの生き方で良かったのか?等々』と問わずにはおれない生き方をしているのかも知れません。

日々出会う順縁・逆縁全てのご縁を『南無阿弥陀仏のご縁』としていただき、自己中心的な考え・日常性から抜け出す事が少しでも出来ればと思う端から、悲しいかな昨日・今日・明日の生活の事ばかりを考えて生きておられる私自身です。

昨今、グローバル化した時代になっており、資源も無く豊かな国土も無い日本は、今の経済力等を維持していくために、世界と戦っていかざるをえない環境下にあり、よって知性中心主義・理性中心主義的な生き方が、より求められる時代になっていると思っております。

しかし、この様に競争が激化し、混迷している時代だからこそ、約800年間時代に淘汰されず、その時代時代の人々の生きていく拠り所・指針等となってきた浄土真宗のみ教えの中に、私たちが、今のこの時代を生きていくための大きな拠り所・指針等の『答え』があるのかも知れません。

南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏

